

# 発話行為の多チャンネル性と発話場面の主体

杉村洋平

## 1. 問題の所在と研究の目的

本論では、ことばの性質を通して行為の主体のあり方を探る。ことばは具体的な対面的相互行為において局所的なレベルの社会を形成する重要な資源であり、人間関係を構築し、社会に受け入れられるような適切な秩序をつくりあげるのに重要だからである。

通常、行為の主体は人格という概念によって理解される。人格を保証するものは自己同一性つまり一貫性であるが、対面的相互行為において主体はむしろ首尾一貫していないことに意味があることを論じる。

1960年代のハイムズの「ことばの民族誌」以降の人類学的言語研究（[Hymes, 1974] など）は、ハイムズによって提唱された諸概念や、会話分析等の隣接分野の方法論を取り込みながら、会話の組織化を研究しながらも会話の問題だけに終始せず社会との関連を論じている。社会秩序の解明を主題とするとき、文法や語彙を基礎としつつも、ことばの形式とそれが発される場面や社会状況との関連を中心とした分析が有効となる。ことばの中でも、まさに現実の状況との関わりの中で生まれる自然発話を取り上げることで、こうした分析は容易になる。本論はこうした研究の中に位置するものであり、本論の目的は、具体的な発話の場で、発話を元にしたそれぞれの行為がどのように達成され、それにはどのようなことばの性質が関連しているかを論じることである。

## 2. 用いるデータと分析方法

### 2-1 データ

発話を包括的に扱うためには、できる限り様々な性質の発話場面を分析する必要があるが、発話は人間のありとあらゆる活動に随伴するものであり、その意味では「全ての発話場面」を対象化し、分析の俎上に乗せることは困難である。そこで本論では、「全ての発話場面」を対象にせずに発話を分析的に扱うために、当該発話場面の性質と発話の性質の関連を調べることで、その間にある包括的なメカニズムを探る。

本論で用いるデータは、筆者が記録した会話の録音録画データ、およびテレビで放映されたトーク番組と国会質疑応答の録画である。これらを選んだ理由は、発話の制度化の程度を幅広くとるた

めである。ここで、発話の制度化とは、会話の進行が参加者の自由によるものではなく、式次第の進行や台本など、規定された筋書きに基づいて行われることを指す。

進行が参加者自身の自由な管理に基づき、最もフォーマルさの低い日常的な雑談、進行が司会による管理に基づき、フォーマルさの最も高い国会の質疑応答、さらにその中間であるテレビのトーク番組、という配置になっている。

## 2-2 分析方法

本論では二つの分析概念を用いる。発話の構成要素と、発話行為のチャンネルである。それぞれ発話の状況の性質と発話の内部の状況の分析に対応する。

まず発話場面の性質についての分析の枠組みとして、「発話の構成要素 (components of speech)」[Hymes, 1974:53-62] に着目する。発話が行われている場面を、それを構成する分析的な要素に分ける考え方である。本論ではこれを若干改変して用いる (表-1)。

次に、発話の内部状況を捉える発話行為のチャンネルについて説明する。人が発話行為に用いる身体的な所作は、ことばに関わるものとことば以外のものに分けられる。ことば以外の身体的な所作を、身体動作とする。次に、ことばに関わるものはことばの形式とことばの内容に分けられる。ことばの形式は、声色、声量、イントネーションなどがあり、これらを総称してパラ言語とする。

表-1 発話の構成要素

項目	詳細
1. 状況	環境、場面など
2. 参加者	参加者の属性、規模、人数など
3. 目的	発話の目的
4. 内容と形式	内容、内容についての拘束、形式についての拘束
5. 基調	参加者の話し方や雰囲気
6. 媒介	用いられるチャンネル
7. ジャンル	発話の種別。会話、演説など

表-2 発話行為のチャンネル

形式		チャンネル
ことばの内容	内容レベル	命題
	メタ命題	メタ命題/モダリティ
ことばの形式 (内容以外)		パラ言語
身体動作 (ことば以外)		ジェスチャー/視線

ポヤトスは相互行為研究の中で、ことば、パラ言語、動作 (words, paralinguistic, kinesic) の三つをコミュニケーションの基礎構造とした [Poyatos, 1982]。本論ではさらにことばの内容を内容レベルとメタ命題レベルに分ける。メタ命題レベルには、命題をメタ命題レベルに移行させることばを含む (表-2)。

つまり、発話場面を相互行為としての外的状況の性質と発話そのものの性質という二点から分析する。

### 3. 分 析

#### 3-1 メタ命題

雑談のデータでは、メタレベル化は内容を対象化することにより緩衝機能を持ち、他の文法的な緩衝と共に聞き手との良好な人間関係を維持する機能を果たしている。

例えばデータBは、男子大学院生三人の雑談である。ここでは、15行目の人物Aの発話に注目する。

(なお、トランスクリプトおよび用いた記号の説明は、本論の最後に掲載してある。)

15A (.) ね h別に使いたきゃ 全部使えるのにとか思ったり

ここでは、「使いたきゃ全部使えるのに」という発話だけではなくそれに「とか思ったり」と続けることでメタレベル化している。これにより、直前のAによる「サンカク」使用者に対する皮肉をうまく理解できなかったBに対し「理解力のない人物」として扱うことを回避している。つまり、ブラウンとレヴィンソン [Brown & Levinson, 1987] の言うFTA回避の方略と同様の効果を上げている。「とか思ったり」と付け加えることで、「使いたきゃ全部使えるのに」という情報を提示し、聞き手Bに説明をする機能と、それを対象化し緩衝する機能を同時に持っている。二つのレベルの並立が、この発話の全体的な機能を達成していると言える。

また、Aはこの発話を笑いながら行うことで、聞き手の笑顔を引き出すことも達成している。発話の構成要素の一つである目的は、ここでは交話である。人間は話すことでこうした人間関係を構築する。安定して穏やかな笑顔での会話を行うことはこうした人間関係を達成するということでもある。しかしもちろん、全てのメタ言語的表現がこうしたはたらきだけをするわけではない。

次に、テレビのトーク番組であるデータCに見られる、

21 GS あー昨日なんであたし泣いてたんだろうみたいな.h (0.8)

を分析する。ここでは、文脈からFTA回避の機能を果たしているとは考え難い。この発話の後エ

ピソードが終わり、長めの沈黙の後、話題をまとめる発話に移行している。「みたいな」とメタレベル化することで、エピソード（オブジェクトレベル）の終了を際立たせ、まとまりをつけて終わりを標示する機能が働いていると言える。もちろん日常の雑談でもこの機能は果たしえるが、トーク番組の成り立ちとしてエピソードの紹介は重要な素材であり、それゆえにトーク番組はこの機能を際立たせて見せる。

メタ命題化は、状況により必ずしもFTA回避やエピソードの終了標示として機能するとは限らないが、内容レベルの命題を対象化することで、発話全体のはたらきに新たな意味を付け加えることを可能にする。

### 3-2 パラ言語

次にパラ言語とことばの内容の関係に関して分析する。

Aは女性二人の雑談である。Aにおける次の発話は、知人「ララ」を批判しながら、彼女の発言を引用している部分である。

03F タカちゃんってえらいとおもーうとか言ってね>なにがえらいのかってく

タカちゃんってみんなに優しくするから私もまね-見習おーうとか-とか言ってんの。

下線部で、Fは他の部分よりも音程を上げ、速度を下げて発話する。このパラ言語が変化している下線部は、「とか言って」による明示や意味内容からもわかるように、「ララ」の発話を再現している部分である。書式を変えA-2のように表すとわかるように、「ララ」の発言を再現している部分とパラ言語の変わる部分が一致している。

今まさに発言している、口を動かしている人物（この例ではF）と、その発話の責任が帰される人物（この例では「ララ」）は厳密に区別して考える必要がある。ここで、前者を発声者、後者を発話者と呼ぶ。

パラ言語の変更により、発話者の交代を明示できる。これにより直接引用による発話が可能となる。もちろん発話者の変更は「とか」などの導入表現だけでも可能であるが、発声者の発話者（引用元）に対する感情の強度や態度は、パラ言語があって初めて伝達される。

この例では、その感情の強度や再現性がアイロニーを成立させている。アイロニーもまた、上記のFTA回避行動と同様、ある一定の人間関係ないし社会関係を創出する。アイロニーは、知識や社会通念や道徳に対する理解を共有していることを話し手と聞き手の間で確認することになるからである。これによって達成される共有の確認は、批判することを通じて交話を実現する。さらにそのことが、学生同士や旧来の友人という関係を深めてゆく。

次に、フォーマルさの高い発話での例を見る。データGは保育園の催しにおける発話である。こ

うした場面では、細かい部分は発話者に委ねられている部分もあるが、雑談と異なり、進行役が発話しなければならぬ内容とその一般的な形式が共有されている。

データは式次第の第一番目である「はじめのことば」の直前である。保育士の09行「はじめの一ことば」という発話に続いて子供達をはじめのことばを斉唱する。この09行は、独特なパラ言語と共起している。通常伸ばさない部分を伸ばして発音し、通常用いない抑揚をつけて話すやりかたである。このような話し方は日常生活の中では用いない。しかし、この抑揚はこの保育士個人に独自のものではないことが指摘できる。例えば保育園や小学校低学年の、斉唱や唱和と呼ばれる発話で観察される抑揚である。データGに続く子供達の斉唱も、同じ抑揚で発話されている。

「はじめの一ことば」という発話は、「開会する」という宣言であり、同時に「はじめのことばを言え」という指示という働きを持っており、意味内容だけを伝達しているわけではない。よって、発話者は個人としての保育士ではなく進行役としての保育士であり、ここでは発話者が交代していることがわかる。よって「はじめの一ことば」をもしここで保育士がパラ言語を変更せずに「始めの言葉」と発話したなら、発話者が保育士個人となり、「続いてはじめのことばを言え」という解釈の妥当性が低くなる。「はじめの一ことば」というパラ言語によって、この発話が式次第の一部であることが解釈されるのである。

つまりこうした式次第や挨拶の場面では、コンテキストとパラ言語が場面を標示すると同時に場面をつくり出している。発話者の交代を標示するパラ言語の変更であるが、それはアイロニーや他の人物の再現に結びつかず、場面を転換するというはたらきをしている。ここでは、アイロニーや再現性を生み出すことはできない。

### 3-3 身体動作

次に身体動作について分析する。本論では身体動作として、特に視線のデータを取り上げる。視線は他のジェスチャーと異なり、常に発話に共起し、そのため常に何らかの資源として機能するものだからである。

データAの一部に視線のデータを加えたものがデータA-3である。ここでは、聞き手Dを見る視線と、ほんやりと前方の空間を見る視線が交互に現れている。そしてそれは、既に述べた発話者が交代する部分と等しいことがわかる。発話者が「ララ」となる引用部分の再現性が、パラ言語のみならず視線も同時に用いて形成されているのである。

データD、Eは国会の質疑応答のテレビ放送の一部を文字化したものである。この二つのデータはKという野党議員による長い質疑応答のそれぞれ始まり部分と途中の部分である。データDは、最初の質問である。ここでは、周囲に向かう視線はほとんど見られない。視線は発言の間中回答者に向かっており、たまに手元の資料を確認する程度である。

それに対してデータEでは、周囲を見る視線が何度も見られる。資料を見る視線はあまり見られ

ず、回答者と周囲の間を往復する。この視線のあり方の違いは、各発言のあり方の違いを生み出している。

データDは質疑応答の導入、最初の発言であるので当然議論はまだ白熱しておらず、前半は総理に対するねぎらいの挨拶である。後半は具体的な議論に入っているものの、取り上げる議題を導入する意味合いが強い。

こうした発言において回答者を見つめる視線を用いることで、質問者と回答者という対になる関係が鮮明に浮かび上がる。これから議論を始めるにあたって、議論の当事者である質問者と回答者という関係をより堅固につくりあげる資源としてはたらく。

それに対して、データEは議論が進み、討論の様相を呈してきた場面である。ある政治的問題に関しての質問とその回答を受け、更にその回答に対する質問者の評価の場面である。評価は辛らつな批判となっている。こうした発言において周囲を見る視線を用いることで、周囲の人々を聞き手として議論の場面に取り込むことになる。聞き手は議論を見ている存在として取り込まれ、話し手のコメントが直接向かう先として指定されるわけではない。質問者が話しているのはコメントの宛先である回答者だが、同時にこの状況を、周囲の人々に見られるものとして形成するのである。

視線はその配置によって、前置きの挨拶から白熱した議論へと、場面の相貌を変える。また一方で、パラ言語と協調し、発話者を交代させ再現性を高める。こうした視線のはたらきは結果として、雑談を雑談たらしめ、議論を議論たらしめている。つまり場面の構成要素を強調し維持するはたらきを持ちうる。

### 3-4 チャンネル同士の関係

メタ命題とパラ言語、パラ言語と身体動作、メタ命題と身体動作の間では、それらが共に協調して意味を形成することはあっても差異を形成することはなかった。これはもちろん、ことばの内容レベルだけが他のチャンネルに比べて突出して多く象徴記号的な機能を担っていることに関連している。よって多チャンネル性は命題レベルとの関連において意味をもつ。ただしメタ命題、パラ言語、身体動作が同じチャンネルとして機能しているわけではなく、それぞれの特性によりはたらき方が異なる。例えば、メタ命題は自らの言語行動に言及することで具体的な実在の発話者を指定しやすく、パラ言語は細かい意味を表意できないかわりに基調に直接にうったえかけ、身体動作は動的に再現性を演出することができる。

### 3-5 発話の構成要素との関連

雑談においては、発話行為の多チャンネル性が発話行為の資源として用いられ、発話者の変更がアイロニーやパンチライン化、再現性という形で、基調を中心に目的や参加者など発話の構成要素を維持、再生産している。それは人間関係や社会関係の構築そのものであった。保育園の催しでも

発話者の交代がみられるが、ここでの発話者の交代は式次第を遂行する行為遂行的性格だけをもつ。国会の質疑応答のデータでは、発話者の交代は見られない。雑談と制度化状況において、発話者の変更や多チャンネル性の用いられ方にこうした違いがある。

これは逆に、発話者の交代やアイロニーや再現性によって明るく静穏な基調を維持ないし再生産し、人間関係や社会関係を確認したり構築したりする場を雑談と呼び、発話自体による人間関係や社会関係の構築が起こらないことによって、情報伝達や行為の遂行が主にはたらく場面が制度化された状況である、と理解できる。

#### 4. 結論 対面的相互行為における主体

ことばは文脈や状況と関連し、様々なチャンネルとの共同作業でひとつの発話をつくりあげる。対面的相互行為において、主体を構成するのは自己同一性によって保証される人格ではなく、多チャンネル性を保持したまま全体で一つの意味を伝える主体である。

多チャンネル性やそれに基づく発話者の交代によって、雑談では人間関係や社会関係が維持され再生産される。一方制度化状況では議事や式次第など場面ごとの相互行為が達成される。相互行為においてそれぞれの発話は、複数の発話者の存在がそれぞれの役割を果たしながら全体としての発話という行為を達成している。そしてそれは、多チャンネル性ということばの性質が生み出し、支えている。

本論では、対面的相互行為の場面という、主体の限定された側面にしか焦点を当てず、また発話者概念や発話の多チャンネル性の重要性とそのメカニズムの大枠に触れたに過ぎない。今後は更に、様々な性質のデータの検討が必要である。

また、本論から浮かび上がる問題点にも今後の研究が必要である。例えば、語りと演技の問題は[川田、1992] [菅原、1998:147-181] [坂部、1990] [Goodwin, 1990] などの先行研究でも指摘される重要な問題であるが、これについても本論の多チャンネル性と主体という枠組みから、新たな発展的議論が期待できる。

また今後は、本論で提示したモデルをさらに検討し、発話と主体のメカニズムの更なる探求、特に社会との関連など、本論が扱わなかった状況やデータについても分析を重ねることにより、人格や主体の問題、相互行為の問題の中に新たな問題を投じることが期待できる。

## コーパス

## 記号の説明

以下は、本論のトランスクリプトで用いた記号の説明である。

?	上昇調のイントネーション	}	発話1
><	囲まれた発話の部分の速度が速い		発話2
—	音が伸ばされている状態	=	途切れなく続く発話
h/.h	呼気音/吸気音	(0.3) など	沈黙の長さ (単位は秒)
(.)	ごく短い沈黙	-	発話の途切れ
(( ))	筆者によるコメント、説明		

各行頭の記号 (01F など) は、行番号と発言した人物を表す

## データ A

記録日：2006年4月22日 於東京都 参加者：2名（それぞれをD、Fと表記する）

話題 : Fが勤める会社に「ララ」と「タカちゃん」（共に仮名）という二名の女性がいる。Fは「ララ」と「タカちゃん」に対して批判的であり、特に「ララ」の発言がいかに変わっているかというエピソードを紹介し始める。

01F でね タカちゃん (.) てますごい私も {できないんだけど

02D うん ((笑い))

03F タカちゃんってえらいとおもーうとか言ってね>なにがえらいのかって<

タカちゃんってみんなに優しくするから私もまね-見習おーうとか-とか言ってんの。もうさ頭悪すぎてついてけな-いも会話に-

04D .h



データA-2

パラ言語のスイッチングが発話内容からみた発話者の変更と一致する

言…発話内容、声…声色、パラ言語、動…身体的動作、

01F

言	でね タカちゃん (.)	てますごい私もできないんだけど
声	ゆっくり。高い声で	早口。高さは通常に戻る
動	首を後ろに傾ける	右手を広げて口の前でまわす

03F-1

言	タカちゃんってえらいと思—う	とかいってねなにがえらいのかって
声	ゆっくり。高い声で	早口。高さは通常に戻る
動	首を後ろに傾ける 首を後ろに傾ける	右手で右の目頭をかく

データA-3

視…話し手の視線を表す。(D：Dの顔を見る F：Fの顔を見る 前方：自分の正面前方の空間に視線をあわせる >>：視線を次の対象へ向けて動かす)

01F

言	でね タカちゃん (.)	てますごい私も	できないんだけど
視	D 前方	>>>>D	_____

03F

言	タカちゃんってえらいとおも—うとか言ってねなにがえらいのかって
視	前方 _____ >>D _____ 前方 _____

言 タカちゃんってみんなに優しくするから私もまね-見習お—うとか-とか言ってんの。

視 前方 \_\_\_\_\_ >D \_\_\_\_\_

## データB

記録日：2005年12月9日 於神奈川県

参加者：3名（それぞれをA、B、Cと表記する）

下線＝発話者が変更されている部分

04B サンカクい-なんか-いーんですかねー

05A サンカクー？俺サンカク派じゃないからサンカクの良さは言えません

06B サンカク何か普通のメモ帳と何が違うのかわかんないんhだけど＝

07A ＝サンカクのー良さはーあーこれサンカク-サンカクさすがだなーとゆってたー一人の（.）セリ  
フを盗み聞きした（3.0）よいしょ（1.5）盗み聞きする限りではーまづーサンカクはー（1.8）

08B お（.）なんか（.）馬鹿にする気満々ばい 発言

09A/10C （（笑い））

11A じゃあやめよう（（笑い））

12B あ（.）聞きたい

13A キーボードマクロが使えるのがいい

14B （.）あ（.）そりゃ-ま-普通に良さげじゃないですか

15A （.）ね h別に使いたきゃ 全部使えるのにとか思ったり

16C （（笑い））

## データC

記録日：2005年10月5日 テレビ番組『徹子の部屋』録画

参加者：2名 GS：ゲスト モデル（タレント）女性、20代 MC：司会者

19 GS ただ一次の日まで泣いたりしてもー仕事の現場に行くとーやっぱり楽しくってー

20 MC ええ

21 GS あー昨日なんであたし泣いてたんだろうみたいなh（0.8）なんか弱さがーそういうー行動？

22 MC うーん

データD

記録日：2006年6月12日 国会中継（衆議院決算行政監視委員会 質疑）テレビ中継録画

IP＝質問者（interpellation）：野党議員 進行：委員長

視線の表記 回答者に向かう視線 周囲に向かう視線 手元の資料に向かう視線

顔は回答者に向かうが視線は不明 下線無し＝質問者が画面外に出る

IP：h え小泉総理 (0.8) ま五年間の小泉-え政権がh (1.0) ま九月にはあ-もうお総裁選に出られな  
いということですのでh まいよいよ (0.3) お-終わりが近づいて参りましてh えー まあたくしと  
 小泉総理 (0.5) 数えてみますと (0.8) 今日で二十四回目の委員会質疑になろうとしています h ま  
あの政争的にはいろいろと (.) 意見が (.) 合わなかった所も多いわけですけども (.) h まずは小  
泉総理にこの五年間ほんとにご苦労様でしたと (.) 申し上げさせていただきますh またh 小泉総理  
のh ま精神的なタフさにはですね (.) 心から敬意を申し上げますと私も (.) これから (.) あ-その  
タフさをですね是非学ばしていただきたいとこのように思っておりますh (0.3) 今あ-斉藤委員の  
方からも少子化のお話がありました (.) h 私もですね (.) ちょうど十年前 (1.0) 小泉総理の直前  
に厚生大臣をやらしていただいたときの出生率が (0.6) 1.43 (.) でありました (1.2)

データE

(データDと同様)

進行：K（質問者氏名）君

IP：h ま今のですね-え-総理の答弁は (.) h これまでの23回と全く同じでありまして (.) 相変ら  
ずはぐらかしておられますね？私が申し上げたのは- (0.6) 争点に (.) したこと-お-についてお聞  
きしたら (0.4) それについて一言言われました (0.7) >自分が争点にしたのではない (0.6) <マ  
スコミが争点にしたんだ (0.9) こ-んなですね私は答弁は初めて聞きました (0.9) それは政治家は  
色々聞かれたときにどう答えるかも含めて (0.7) それによって争点になったり (0.4) 色んなこと  
なるのは当たり前でありましてですね (0.4) 聞かれた時に答えたんだから自分が争点にした訳じゃ  
ない (0.6) こんな答弁を- (0.6) ま-もうやめられる総理でありますけれども >ほんとに国民の皆  
さんが<どう聞いてるか (0.4)

## データ G

記録日：2006年10月7日 於静岡県

- 01 保育士：あ（.）あ（2.0）おはようございまーす（0.8）
- 02 本日はあー雨の中ねあの一ほんと足を運んで頂いてどうもありがとうございます（0.3）
- 03 ではただいまよりえーと（.）おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会というのをね（.）
- 04 え始めさせていただきたいと思いまーす（0.4）
- 05 ね一番最初にバラ組の方から挨拶をさせていただきますー（0.4）
- 06 はいじゃバラ組の（.）始めの言葉のお友達はいじゃこちらへ並んで下さい（0.2）どーぞー
- 07 （（子供達が並ぶ。子供達はそれぞれ喋ったりしている。15秒間））
- 08 <ピアノ音>
- 09 保育士：はじーめのーことーば

## 参考文献

BROWN, Penelope and LEVINSON, Stephen C.,

1987 *Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge university Press.

GOODWIN, Marjorie H.

1990 *He-said-she-said: talk as social organization among black children*, Indiana university press.

HYMES, Dell

1974 "Toward ethnographies of communication", *Foundations in sociolinguistics: an ethnographic approach*, University of Pennsylvania Press. p.3-66

川田順造

1992 「口頭伝承論」、『口頭伝承論』、河出書房新社、p.9-172

POYATOS, Fernando

1982 "New Perspectives for an Integrative Research of Nonverbal Systems", in Key, Mary Richie, (Ed.), *Nonverbal Communication Today*, Berlin, Mouton.

坂部恵

1990 『かたり』、弘文堂。

菅原和孝

1998 『会話の人類学 ブッシュマンの生活世界 (II)』、京都大学学術出版会。

## 用例の出典

『徹子の部屋』、テレビ番組（2005年10月5日放映）、テレビ朝日

『衆議院決算行政監視委員会』、テレビ番組（2006年6月12日放映）、NHK（日本放送協会）